

■実践事例5 【病弱・身体虚弱】中学校・第2学年（Eさん）

自己選択・自己決定力を高め、学校生活の不安を軽減したり、学習方法を工夫したりする意欲の向上を目指した自立活動の指導

1 指導内容を設定するまで

実態把握



学級担任

Eさんは、小学校高学年の際に発病し、入院生活を経て、退院後の現在も通院・投薬治療を継続しています。



主治医からは、病気や治療の影響により感染症に対する抵抗力が弱くなっているため、Eさんの体調や学校での感染症の流行状況を踏まえて登校するように指示を受けています。

病弱・身体虚弱の特別支援学級では、**主治医や保護者と連携を密に取りながら、診断や検査結果、それに基づく医学的所見を把握することが大切です。**



特セン所員



学校では、登校学習とオンラインを活用した学習を併用しています。体調により授業を受けることが難しいこともありますが、学習内容を精選しているため、学習の遅れはありません。

主治医の指示に基づいた学習内容等の変更・調整を行っているのですね。現在の学習方法について、Eさんはどのように感じていますか。



オンラインを活用した学習は、私と一対一の場面が多いため、意見を発表し合ったり、友達の学習状況と比較したりすることがなく、学習に不安を感じている様子が見られます。

生活管理が生活や学習に影響を与えていないかを把握することは重要です。Eさんの学習への影響について、保護者はどのように捉えていますか。



現在も病気の治療中であり、当日の体調や医師の指示による学習活動の変更、調整が頻繁にあるため、Eさんから周囲に自分の意思を伝えることに消極的となることがあると聞いています。

本人・保護者、主治医から治療の経過などの情報収集を行い、学校生活で可能なことをEさんと確認することが大切ですね。



課題の整理

目標の設定



Eさんが学校生活を送る上で必要な生活管理や学習活動の制約に対応するため、自分自身で生活や学習上の困難を把握し、改善・克服できる力を高めることが課題です。

自分で参加可能な活動を判断できるようになることで、学習や病気への不安を軽減することができそうですね。



はい。それと生活の中で自己選択や自己決定を行うことで、自ら様々な学習や運動に参加する経験を積み重ね、学校生活への意欲を高めてほしいです。

病気の自己管理能力や生活における自己選択・自己決定力を高めることは、自立活動の指導の目標となると考えられます。



項目の選定



主体的に生活管理や、より学習や生活をしやすい環境にしていくことが大切であるため、「健康の保持(2)(4)」を中心に、「心理的な安定(1)」や「コミュニケーション(5)」などの項目を選定しました。

健康の保持だけではなく、学校生活全般に目を向けて、心理的な安定やコミュニケーションなど、**病気の影響による生活や学習上の困難に関わる項目を選定**することが大切です。



指導内容の設定



指導では、Eさんが体調や感染状況に応じて、登校して学習をするか、オンラインを活用した学習にするかを自分で選択できるようにする場面を意図的に設定したいと思います。

生活の管理に関わることを、**教師や保護者が一方的に決めるのではなく、自分で選択できるようにすることは大切です。**



また、教師から「選択した理由は？」などの質問をし、Eさんが説明する場面を設定することも大切です。



はい。選択した理由を聞いたり、学級担任以外の先生に伝えたりする場面を設定し、病気に対する生活管理だけではなく、感じている不安や現在の気持ちを伝える力を高めたいと思います。

2 指導内容等の整理

情報収集	Eさんの障がいの状態や長所、課題等について情報収集（詳細は31ページ）
------	-------------------------------------

実態把握	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	現在、通院と投薬による治療中である。 感染症への抵抗力が弱い状態である。 体力が低下しており、運動制限がある。	自分の体調や学習進度に不安を感じている。 自分の思いを表さずに、教師の意向に合わせて学習に取り組むことが多い。	オンラインを活用した学習が多くなると、友達と関わる機会が少ない。	自分の体調の変化に気付いて、周囲に伝えることができる。 学習状況についてクラスメイトと比較する機会が少ない。	運動制限があるため、登校可能な日のみ徒歩で通学するようにしている。	一対一の授業が多く、学級担任とのやり取りが中心である。 教科担任に自分から質問しようとする意欲が高い。
	自立活動の区分に即した整理					

課題の整理	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活を送る上で必要な生活管理や学習活動の制約等に対応するため、生徒が自分の学習上又は生活上の困難を把握し、改善・克服するための工夫について自己選択・自己決定する力を高める必要がある。 病気や学習の不安を軽減するため、自ら工夫できるようにする必要がある。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体調や学校での感染症の流行状況に応じて、学習形態や学習方法を自己選択・自己決定する。
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション

指導内容の設定	【健康(2)(4)、心(1)(2)】	【健康(2)(4)、心(1)(2)、人(3)】	【健康(2)(4)、心(1)(2)、コ(5)】
	① 体調や感染状況に応じて登校学習又はオンラインを活用した学習にするかを自分で選択し、教師に伝える。	② 自分の体調や学びやすさに応じて、学習形態や学習方法を学級担任と相談して決定する。	③ 学習の不安について、教科担任に相談し、学習方法等の助言を得る。

※赤枠に関する指導については、「3 指導の実際」を参照

3 指導の実際

◇ 指導内容①に関する指導

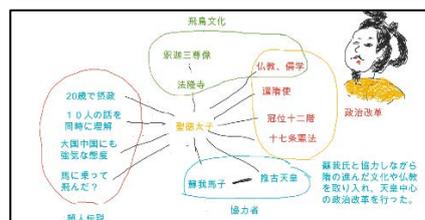
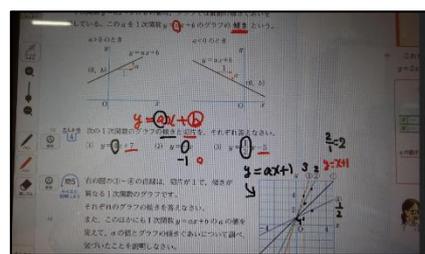
- ・朝の会及び帰りの会において、学級担任と自分の体調や校内の感染状況を確認し、当日又は翌日の学習形態や学習時間等を自分で選択する。
- ・生徒の意見を基に学級担任と話し合いを行い、「午前中を登校学習、午後は家庭でオンラインを活用した学習」など、1日の学習形態を決定する。
- ・学級担任は、生徒が選択した理由などを丁寧に聞き取るようにし、「なぜその学習形態を選んだのか」を分かりやすく伝える方法を理解できるように指導する。



【オンラインを活用した学習の様子】

◇ 指導内容③に関する指導

- ・登校学習の際、生徒が教科担任と学習進度や学習方法について話し合う。
- ・教科担任との話し合いでの質問内容は、自分で考えるように伝え、話し合い後の学級担任との振り返りで、次の教科担任との話し合いに向けた改善点を確認する。
- ・オンラインを活用した学習の際、各教科等の学習内容に応じて、デジタル教科書や思考ツールのアプリの活用に取り組むなど、生徒が自分の学びやすい学習方法に気付き、自ら工夫できるように指導する。



【各教科におけるICT機器の活用】

【指導のポイント】

- 生徒の自己選択・自己決定を尊重するとともに、どの学習形態や学習時間を選んでも学習が円滑に進むよう、指導内容の精選や学習方法の工夫に取り組むこと。
- 保護者や主治医と生徒の健康状態や学校での感染流行の状況等について密に連絡することで、生徒が選択できる学習環境の選択肢を見直すようにすること。
- 本人と保護者に確認しながら、自立活動の指導において、学習形態や学習方法の選択を目標に取り組んでいることを他の教職員や友達と共有すること。

【指導の記録】 [○…成果 ▲…課題]

(1) 生徒の変容

- 生徒自身が、「通常の学級への完全復帰」を目標に定め、毎日、学習形態や学習方法を話し合う中で、不安が生じた場合は、すぐに学級担任や教科担任に伝え、分からないことを質問するなど、意欲的に学習に取り組む様子が見られた。

(2) 指導の評価・改善

- 生徒の選択を尊重する中で、保護者や主治医、教職員との連携が一層図られ、感染症の回避や体力の保持を踏まえた学習活動を安定的に展開できるようになった。
- ▲ 生徒の治療経過や体力の状況に応じた学習環境を継続できるようにするとともに、段階的に通常の学級で学ぶ環境に移行できるよう、生徒と関係者間で情報共有を図り、自立活動の指導内容や必要な配慮を見直していくことが必要である。